

## 第 4 次東海市ごみ処理基本計画後期計画の進行管理及び具体的な取り組みについて

## 1 減量目標について

## (1) 一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）

一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）は、平成 26 年度の実績（920 g / 人・日）から令和 6 年度までに 70 g 削減する。

## ア 一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）の推移

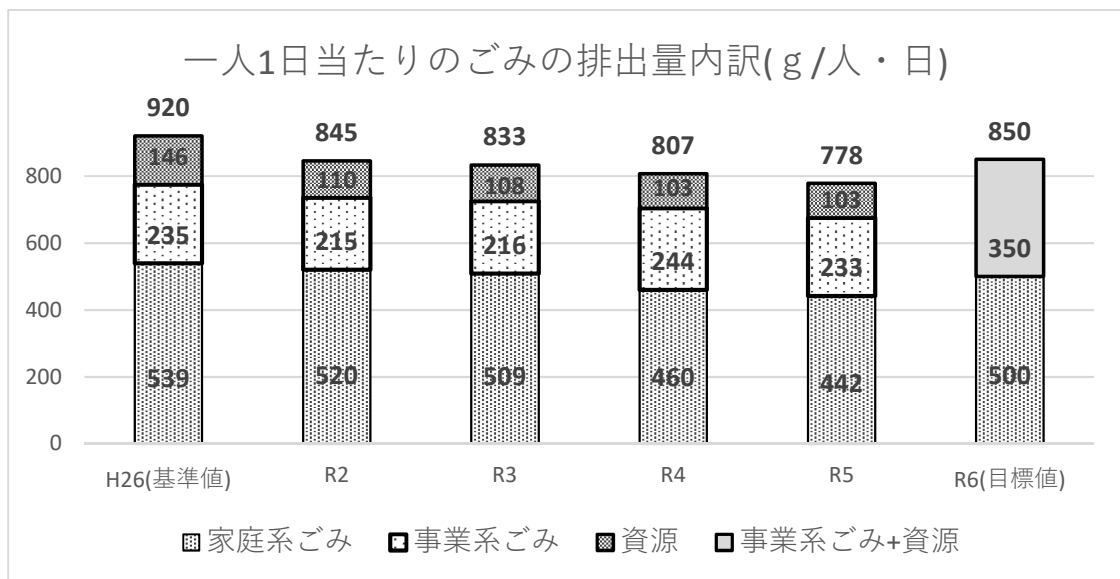
	H26(2014) 基準値	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5(2023) 暫定値	R6(2024) 目標値
一人 1 日当たり のごみの排出量 (資源を含む)	920	845	833	807	778	850

※R 5 は 1 月末時点の暫定値

$(\text{ごみの総排出量 (4 月} \sim \text{1 月)} + \text{資源回収量 (4 月} \sim \text{1 月)}) \div \text{1 月末人口} \div \text{306 日}$

## イ 評価・分析

令和 5 年度の一人 1 日当たりのごみの排出量（資源を含む）は 1 月末時点の暫定値で 778 g となり、昨年度の 807 g から 29 g 削減する見込みとなった。主な要因としては、昨年度と同様で物価の高騰により物品の更新機会が減っていることや、リユース市場の拡大により中古品を売買する人が増加していることが要因と考えられる。



(2) 一人1日当たりの家庭系ごみの排出量

令和2年度までに一人1日当たりの家庭系ごみの排出量を500g以下に削減することは達成できなかったが、引き続き令和8年度に487g以下に削減する。

ア 一人1日当たりの家庭系ごみの排出量の推移

	H26(2014) )基準値	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5(2023) 暫定値	R8(2026) 目標値
一人1日当たりの家庭系ごみの排出量	539	520	509	460	442	487

※R5は1月末時点の暫定値

家庭系ごみの総排出量(4月～1月) ÷ 1月末人口 ÷ 306日

イ 評価・分析

令和5年度の実績は1月末時点の暫定値で基準値から97g減の442gとなり、また、令和3年度までの統計方法では、令和8年度の目標値と同量となる見込みとなった。これは、(1)一人1日当たりのごみの排出量と同様の要因と考えられる。

【参考】従前の統計方法

	H26(2014) )基準値	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R8(2026) 目標値
一人1日当たりの家庭系ごみの排出量	539	520	509	498	487	487

## 2 基本方針に基づく具体的な取り組み実績（R5）

### (1) ごみ分別アプリの活用

#### ア 地域への啓発について

啓発チラシを作成し、東海市3R活動地域推進員を通して全コミュニティへ回覧及び掲示を依頼した。

#### イ 情報発信について

3Rに関する情報を毎月発信した。発信内容は以下のとおり。

	発信内容（タイトル）
4月	ペットボトルの出し方について
5月	3010運動で食品ロス削減
6月	生ごみの水きりについて
7月	サステイナブル☆キッズフェスタを開催します 子ども用品の回収・フードドライブを実施します
8月	お盆時期の片づけについて
9月	プラスチック資源の分別方法が変わります
10月	食品ロス削減月間
11月	プラスチック資源の分別に関するQ&A
12月	3010運動で食品ロス削減
1月	スプレー缶の出し方について
2月	資源集団回収をご利用ください

※令和6年2月末時点

#### ウ その他

令和6年4月から市公式LINEにてごみ・資源の出し方を検索することが可能となる。現在、市政情報や災害情報等は市HPや市公式LINEでの提供が中心となっているため、令和6年度以降は市公式LINEの活用を促す。

※ごみ分別アプリ「東海なび」は令和6年6月末で廃止予定。



## (2) 3010運動の実施

### ア 情報発信

- (ア) 広報で3010運動の実施を促した(12月1日号)。
- (イ) アプリにて「3010運動」を掲載し、食品ロスの啓発を行った。
- (ウ) 事業所を対象とした3010運動の記事を掲載した(商工会議所会報誌)。掲載記事は以下のとおり。

### 経営に役立つ制度紹介

食品ロス削減の取り組み  
3010(さんまるいちまる運動)

「さんまるいちまる  
3010運動」を  
御存知ですか？

もうすぐ忘年会・新年会が開催される季節となりました。

宴会の席では、自席に座る時間が少なく、美味しく作っていただいた料理を残しがちです。また、飲食店では大量の食品ロスが発生しており、その約6割はお客様の食べ残しです。

宴会の際の食品ロスを削減するには、3010運動が効果的です。3010運動とは、宴会の乾杯の後の30分間とお開き前の10分間は自席で料理を食べることで、料理を残さないようにする取り組みです。また、料理の内容や量によって、取り組み時間を変更することも可能です。

宴会を開催する際には、是非、実施してみてください。

【お問い合わせ】

東海市清掃センター

【TEL】052160112053

進行マニュアルはこちらのQRコード



「産業雇用安定助成金  
(スキルアップ支援コース)」

厚生労働省では、「在籍型出向」を用いて労働者のスキルアップに取り組む事業主に対する支援策として「産業雇用安定助成金」を設けています。労働者のスキルアップを在籍型出向により行い、復帰した際の賃金を出向前と比較して5%以上上昇させた事業主(出向元)に対して当該事業主が負担した出向中の賃金の一部を助成します。

1. 助成対象となる「出向」

- 労働者のスキルアップを目的として実施すること
- 出向期間終了後は元の事業所に戻って働くことが前提であること
- 労働者の出向復帰後6か月間の各月の賃金を出向前賃金と比較していずれも5%以上上昇させること



### (3) 食べきり・使いきりの推進

#### ア 地域への啓発

啓発チラシを作成し、東海市3R活動地域推進員を通して全コミュニティへ回覧及び掲示を依頼した。

#### イ 情報発信

(ア) 広報で賞味期限と消費期限の違い等の内容を紹介した。(5月合併号)

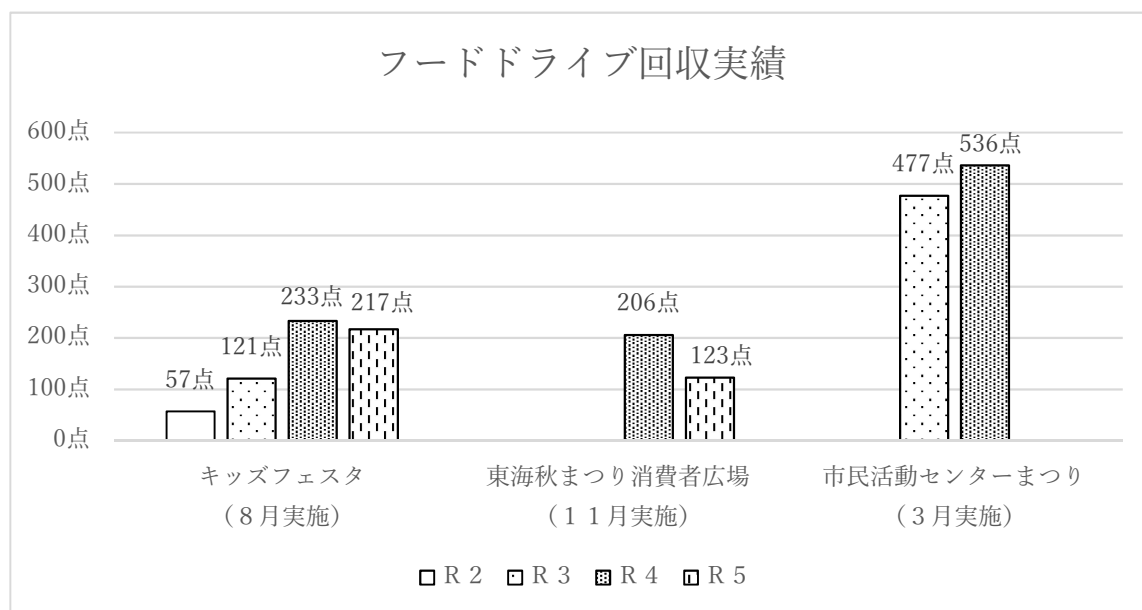
(イ) アプリにて、調理くず削減レシピを掲載し、調理くず削減の啓発を行った。

(ウ) お片付けセミナーの資料と併せて「食品ロス事前チェックシート」を配布し、食品消費行動を見直すきっかけづくりとした。

ウ 全市立保育園に食品ロス啓発紙芝居の読み聞かせを実施するよう幼児保育課へ依頼した(令和5年11月から令和6年3月にかけて回覧中)。

#### エ イベントでの啓発

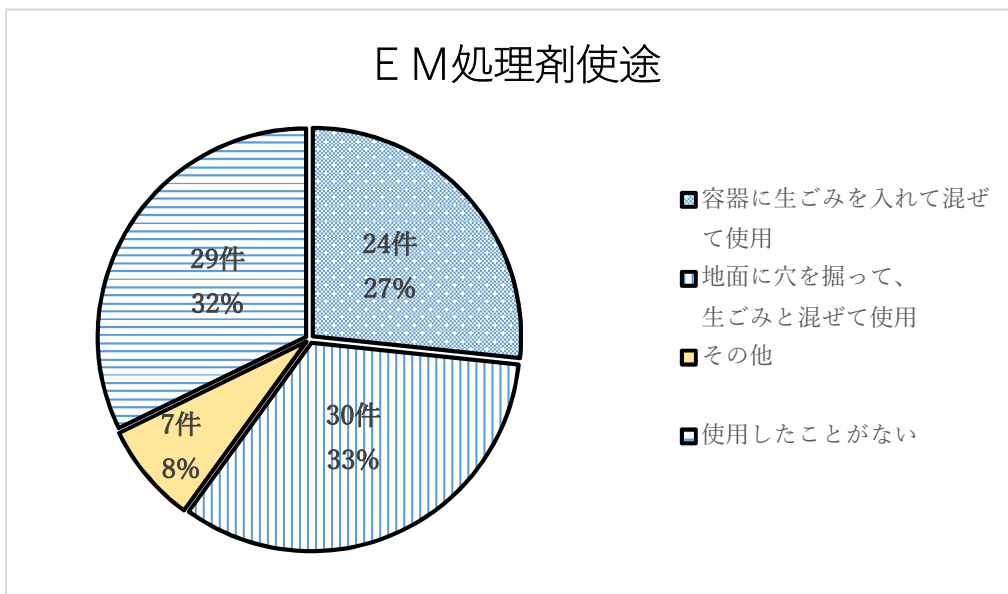
(ア) フードドライブを実施した。



※令和2・3年度の東海秋まつり消費者広場は開催が中止されたため実施していない。

※令和3年度より市民活動センターまつりで回収を実施した。

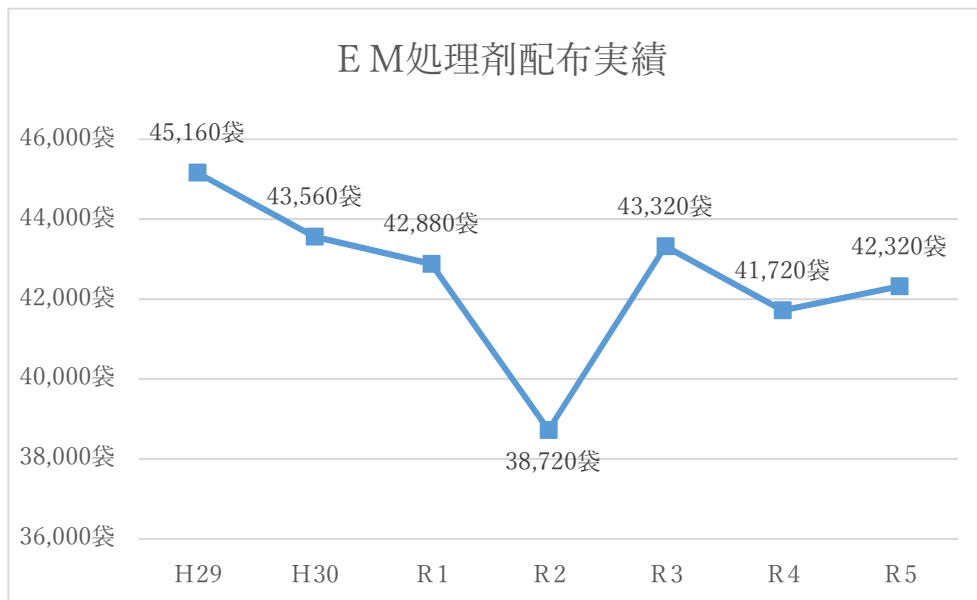
(イ) 東海秋まつり2023消費者広場でEM処理剤の用途に関するアンケートを実施した(全90件)。



【その他の使用方法】

- ・土にまいている。
- ・土の中にEM処理剤のみ入れる。

【参考】EM処理剤配布実績



※令和5年度の配布数は1月までを実績、2月～3月分を伸び率で算出。

#### (4) 水きりの推進

##### ア 情報発信

アプリにて水きりを推進するとともに、実践方法を紹介した。

##### イ イベントでの啓発

東海秋まつり2023消費者広場の来場者へ水きりネットを無料配布した。

#### (5) 事業系一般廃棄物の適正処分と資源化の推進

##### ア 適正な排出方法の周知について

令和5年11月～12月に一般廃棄物収集運搬許可業者を対象に展開検査を実施し、搬入者への適正排出を促した。

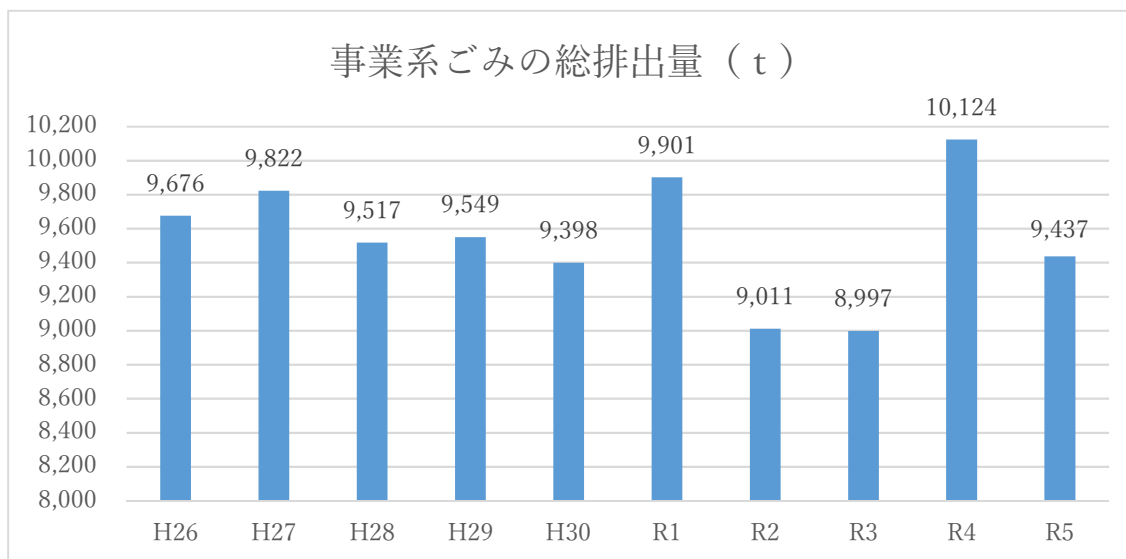
##### イ 資源化業者の紹介について

事業所から出た枝木の持ち込み先に対して、民間事業者である木材開発株式会社を紹介し、適正処分及び資源化の啓発を行った。

##### ウ 産業廃棄物の混入防止について

ごみの持ち込み時に職員が検査することで産業廃棄物の混入防止を防ぐとともに、混入及び事業者より問い合わせがあった際には、一般社団法人愛知県産業資源循環協会（旧社団法人愛知県産業廃棄物協会）を紹介した。

#### 【事業系ごみ総排出量】



※令和5年度の総排出量は1月までを実績、2月～3月分を伸び率で算出。

(6) その他

ア 小学生の施設見学の受入れ

社会見学の一環として、依頼のあった小学校を受け入れ、ごみ減量・資源化への意識高揚を図った。

依頼先：緑陽、名和、平洲、明倫、以上4校

イ 東海秋まつり2023消費者広場

(ア) プラスチック使用製品の一括回収の制度、ペットボトルの水平リサイクル「ボトルt o ボトル」の取り組みを周知した（詳細は資料3へ）。

(イ) フードドライブ及び子ども服の「おゆずり・おさがり交換会」の実施

フードドライブでは、123点の食品が集まり、市内の福祉施設・団体へ支援し、有効活用していただいた。

子ども服の「おゆずり・おさがり交換会」は、まだ着られる子ども服を必要としている方に譲ったり、おさがりに活用することで、「ごみの減量化」と「子育て支援」を推進することを目的として試みたもの。495枚の子ども服を持ち帰っていただき、一部の服は、東海樟風高校が取り組む「届けよう、服のチカラプロジェクト」に活用していただいた。